

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 13 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|-------------------------------|
| 小委員会名 | 室内空気質小委員会 | 主 査 名：野崎淳夫 就任年月：2017 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学委員会 (空気環境運営委員会) | 委員長名：秋元 孝之 主 査 名：長谷川麻子 |
| 設 置 期 間 | 2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | 室内空気中の化学物質のほか、微生物、臭気、アレルゲンなど室内空気汚染物質全般について、新しい情報を収集する。 初年度：最新情報の収集と学会規準制定に向けての検討を行う。 2 年度：今後の室内空気質における室内空気汚染について情報交換を行う。 3 年度：各課題に対する室内空気質対策についての学会規準の検討を行う 4 年度：学会として適切な情報の発信のため、規準作成などの検討を行う。 | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：無 | |
| | 主査：野崎淳夫 (東北文化学園大学) 幹事：鍵直樹 (東京工業大学) 委員：東賢一 (近畿大学), 一條佑介 (東北文化学園大学), 金勲 (国立保健医療科学院), 斉藤智 (竹中工務店), 高塚威 (新日本空調), 竹村明久 (摂南大学), 長谷川麻子 (宮城学院女子大学), 光田恵 (大同大学), 村上栄造 (朝日工業社), 柳宇 (工学院大学), 山口一 (大同大学), 湯懐鵬 (新菱冷熱工業), 四本瑞世 (大林組) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 室内の臭気評価法検討 WG：室内臭気の評価手法について検討 アフターコロナの空気質検討 WG：新型コロナウイルス感染症後の空気質のあり方について検討 SVOC 測定法と汚染低減検討 WG：室内 SVOC の測定方法と低減対策について提案 建築環境における呼吸器系感染症緩和策ロードマップ策定 WG：新型コロナウイルス後の室内環境のガイドラインを作成 | |
| 2022 年度予算 | 190,000 円 | ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： |

| 項 目 | 自己評価 |
|---|--|
| 委員会開催数 | 3 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画 | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 室内空気質に関する最新情報の共有 2. 新型コロナウイルスに関する空気環境の観点からの議論, 大会 OS の企画 |
| 委員会活動の問題点・課題 | なし |

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

| 総合評価 (4 段階評価) | A | B | C | D |
|---------------------------------|--|---|---|---|
| 総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等) | <p>本小委員会において、WHO における議論を参考に、室内空気中の化学物質のほか、微生物、臭気、アレルゲンなど室内空気汚染物質全般について、最新の情報を収集、意見交換を行った。また、新型コロナにより感染対策として、室内微生物、ウイルスについての挙動と換気・空気清浄機、紫外線などによる対策について、今までの知見をもとに検討することができた。室内の臭気評価法検討 WG、SVOC 測定法と汚染低減検討 WG を設定することにより、幅広い議論を行うことができた。さらに新型コロナに関連し、アフターコロナの空気質検討 WG、建築環境における呼吸器系感染症緩和策ロードマップ策定 WG を設置して、空気環境ができること、接触感染などの除染も含めた議論を行い、換気の適切な情報提供の方法について議論を行うことができた。空気清浄機の効果についても、今後情報提供ができることを確認した。さらに来年度大会の OS として、新型コロナウイルスに関するセッションについて、提案を行った。</p> <p>さらに、建築製図室の模型製作に関するスプレアの使用状況、対策、空気汚染についての情報を収集し、今後の対応について検討を行う準備を行った。</p> <p>以前に刊行した学会規準の絶版に関する議論を行い、今後の社会状況も含めて検討する必要がある、単純に絶版にすべきではないことの議論を行った。</p> | | | |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。